

第4次静岡県がん対策推進計画の進行管理



幸福度日本一の静岡県

計画の概要

全体目標

「がんを患う県民を、減らし、見つけ、治し、支える静岡県」

① 禁煙や受動喫煙防止、生活習慣の改善等により、がんを患う県民を「減らす」

② 精度の高いがん検診の受診率を向上し、がんを患う県民を早く「見つける」

③ 一人ひとりのがん患者に最適ながん診療を行い、がんを患う県民を「治す」

④ 県民全体で、県内全てのがん患者、体験者、その家族を「支える」

具体的な戦略

I がんの予防と早期発見の推進

- 1 たばこ対策の強化
- 2 生活習慣の改善
- 3 がんの原因となる感染症対策の推進
- 4 がん検診の受診率向上と精度管理の推進

II 患者一人ひとりに合わせたがん医療の実現

- 5 がん診療連携拠点病院等の整備
- 6 手術療法、放射線療法、薬物療法及び免疫療法の推進
- 7 がんゲノム医療体制の構築とプロジェクトHOPEの推進
- 8 医療安全対策の推進
- 9 多職種チーム医療の推進
- 10 がんに関するリハビリテーション・形成外科・補填医療の普及
- 11 がん治療に伴う支持療法の推進
- 12 希少がん、難治性がん治療のための連携の推進
- 13 小児がん、AYA世代のがん医療の整備
- 14 高齢者のがん医療の推進
- 15 病理診断の均てん化
- 16 がん登録の活用
- 17 臨床試験(治験)の充実

III がん患者とその家族の安心できる暮らしの支援

- 18 緩和ケアの充実
- 19 相談支援の充実
- 20 医療連携の充実
- 21 県民に対するきめ細かな情報提供
- 22 在宅医療の充実
- 23 就労のための支援
- 24 患者団体等との連携・協働及び支援

IV 将来につながるがん対策の基盤づくり

- 25 ファルマバレープロジェクトを中心とする研究・開発の推進
- 26 静岡がん会議
- 27 人材の育成
- 28 がん教育の推進
- 29 デジタル化の推進

①全体目標を達成するための数値目標における

進捗状況

②各戦略の数値目標の進捗状況・具体的な

戦術の取組状況

数値目標の評価基準

評価区分		基準	最新値との比較	
			基準値	目標値
◎	目標達成	最新値が、既に目標値を達成しているもの	－	達成
○	数値改善	最新値が、基準値より改善しているが、目標値には達していないもの ※ 1つの項目に指標が複数ある場合は、基準値より改善した指標が66%以上	改善	未達成
△	現状維持	最新値が、基準値と同等であるもの ※ 1つの項目に指標が複数ある場合は、基準値より改善した指標が33%以上66%未満	同等	未達成
×	数値悪化	最新値が、基準値より悪化しているもの ※ 1つの項目に指標が複数ある場合は、基準値より改善した指標が33%未満	悪化	未達成
－	評価不能	基準値からの更新がなく、評価できないもの	不可能	不可能

①全体目標を達成するための数値目標における進捗状況

区分		2025年12月時点
目標達成		2
目標未達成	数値改善	3
	現状維持	0
	<u>数値悪化</u>	<u>1</u>
評価不能※		1
計		7

・対県標準化死亡比
最大の地域と最小の地域の比較倍率

※評価不能：基準値からの更新なし

①全体目標を達成するための各数値目標における進捗状況

	目標	項目	基準値	目標値 (2029年)	最新値	進捗状況
1	喫煙する県民の割合を減らします。	20歳以上の者の喫煙率	男性25.9% 女性 7.6% (2022年)	男性20% 女性 5% (2035年)	2026年7月 公表予定	評価不能
2	がんが早期に見つかる県民を増やします。	がん検診のある5つのがんの県内の罹患者のうち、上皮内がん※1及び限局がん※2の罹患者の占める割合	胃がん 54.0% 肺がん 35.7% 大腸がん 55.8% 乳がん 62.8% 子宮頸がん76.2% (2020年)	胃がん 65.0% 肺がん 45.0% 大腸がん 65.0% 乳がん 70.0% 子宮頸がん85.0%	胃がん 58.1% 肺がん 37.5% 大腸がん 57.4% 乳がん 63.9% 子宮頸がん79.4% (2023年)	数値改善
3	がんで亡くなる県民の増加を抑えます。	県内の年間がん死亡者数	11,035人 (2022年)	11,800人 推計値は 11,900人である ため100人減	10,923人 (2024年)	目標達成
4	がんで亡くなる県民の地域差を減らします。	対県標準化死亡比※3最大の地域と最小の地域の比較倍率	<u>1.28倍</u> (2017～2021年)	1.20倍	<u>1.29倍</u> (2019～2023年)	<u>数値悪化</u>

※1 上皮内がん：上皮内腫瘍とも呼ばれ、がん細胞が臓器の表面を覆っている上皮までにとどまっているがんのこと。

※2 限局がん：最初に発生した原発部位から広がっておらず、限られた狭い範囲にのみ発生しているがんのこと。

※3 標準化死亡比：県の死亡率をある市町に当てはめた際に計算されるその病気による死亡者数と、その市町でのその病気による実際の死亡者数を比較したもの。数値が100より大きい場合は、県よりもその病気による死亡者が多いと言える。

⇒ 対県標準化死亡比は、最小地域（浜松市）の値が0.5ポイント減少、最大地域（熱海）の値が0.1ポイント増加し、比較倍率が1.29倍に増加した。今後、全国がん登録のデータなどを用いて、静岡社会健康医学大学院大学と協力して分析を進め、有効な対策を検討していく。

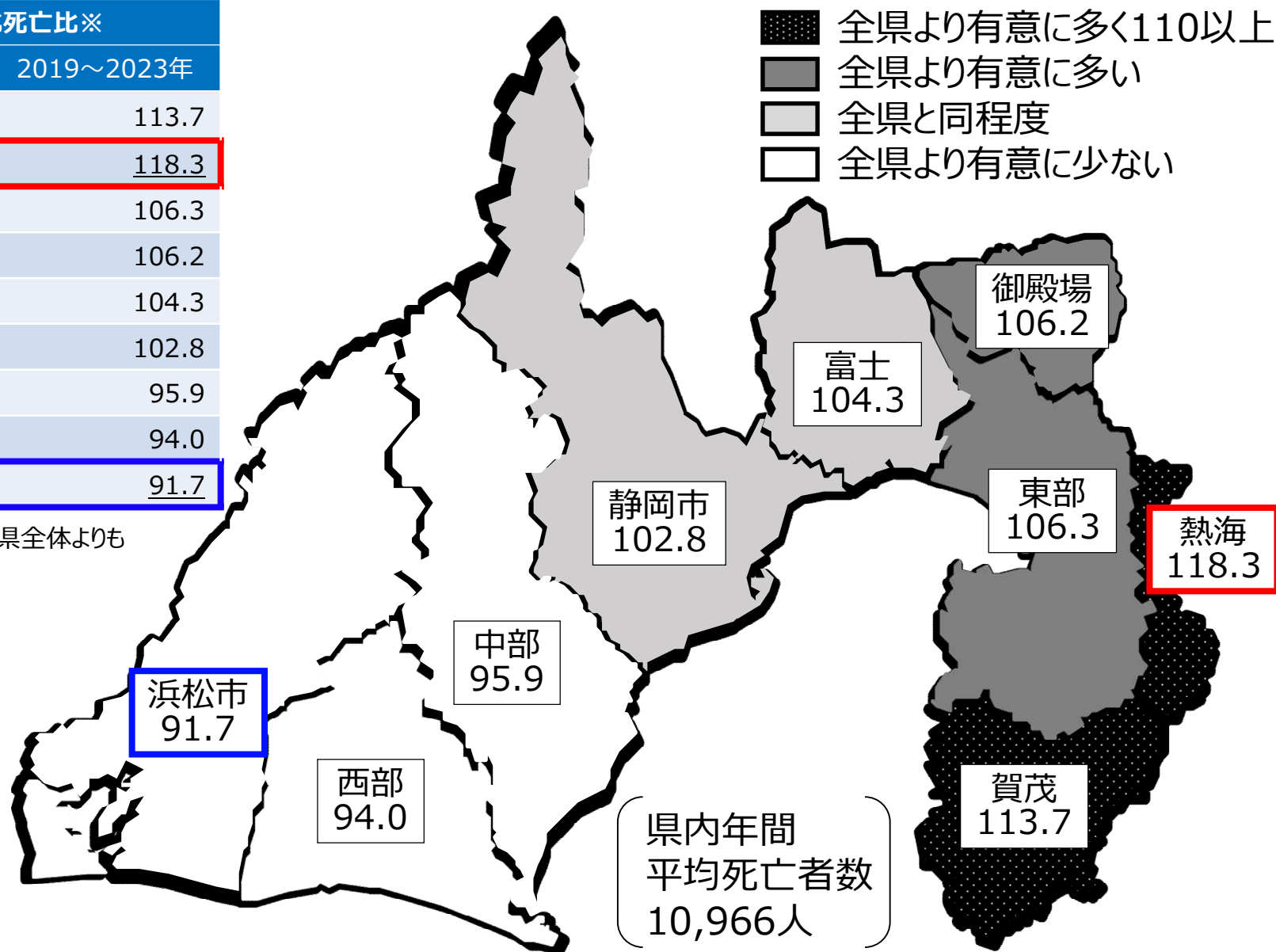
①全体目標を達成するための各数値目標における進捗状況

	目標	項目	基準値	目標値 (2029年)	最新値	進捗状況
5	がん患者の生活の質の維持・向上を目指します。	長期療養者就職支援事業におけるがん患者失職率	51.0% (2022年)	30.0%未満	35.8% (2023年)	数値改善
		現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	70.5% (2018年)	改善	79.0% (2023年)	目標達成
6	県内各学校で適切ながん教育を実施します。	学校保健計画に位置づけたがん教育を実施した小学校・中学校・高等学校の割合	44.0% (2021年)	100%	59.7% (2024年)	数値改善

【参考】 目標 4 保健所管内別 標準化死亡比(全部位がん)(2019~2023年)

保健所	対県標準化死亡比※	
	2017~2021年	2019~2023年
賀茂	109.3	113.7
熱海	<u>118.2</u>	<u>118.3</u>
東部	106.0	106.3
御殿場	103.7	106.2
富士	105.7	104.3
静岡市	102.3	102.8
中部	96.1	95.9
西部	93.8	94.0
浜松市	<u>92.2</u>	<u>91.7</u>

※数値が100より大きい場合は、県全体よりも死亡率が高いことを示す。



最大地域と最小地域の比較倍率：1.29倍（熱海118.3/浜松市91.7）

②各戦略の数値目標の進捗状況

区分		2025年12月時点
目標達成		1
目標未達成	数値改善	9
	現状維持	4
	<u>数値悪化</u>	<u>4</u>
評価不能※		5
計		23

- ・肝炎ウイルス検査の受検者 …スライド16
- ・小児がん拠点病院及び小児がん連携病院の数 …スライド35
- ・がん登録における全部位がんのDCI割合、DCO割合、MI比 …スライド38
- ・がん患者の就労支援に関する研修受講者数 …スライド49

※評価不能：基準値からの更新なし

I - 1 たばこ対策の強化

2025年度の取組等

- 喫煙防止対策として、禁煙治療ができる医療機関や禁煙支援薬局等の情報収集・提供、保健指導従事者や事業所担当者等に対する禁煙支援に関する研修会の開催、地域薬剤師会と連携した薬局における禁煙相談を推進した。（健康増進課）
- 世界禁煙デーに合わせ、キャンペーンを実施し、喫煙による健康への害や禁煙について啓発した。（健康増進課）
- 県作成の妊婦及び乳幼児の保護者向けのたばこに関するリーフレットを市町における健診等の機会を通じて配布した。（健康増進課）
- 「健康増進法の一部を改正する法律」（2020年4月1日全面施行）及び「静岡県受動喫煙防止条例」（2019年4月1日全面施行）に基づく受動喫煙防止対策について周知普及を図るとともに、各種施設における対策の徹底に向けた相談対応、助言指導した。（健康増進課）
- たばこの害について啓発するため、県内全ての小学校5年生に喫煙防止（防煙）に関する新しい下敷きを配布した。（疾病対策課・静岡がんセンター・健康体育課）
- 県内全ての小学校の5年生又は6年生、中学生及び高校生を対象とした薬学講座を、全校（900校）で開催することを予定し、学校薬剤師等により、たばこの害等について、知識の普及を図っている。（薬事課）

I-1 たばこ対策の強化

目標への進捗状況

【目標】 喫煙により補導される中高生の人数の減少を目指します。

項目	基準値 (2022年)	目標値 (2029年)	最新値 (2024年)	進捗状況
喫煙により補導される中高生の人数	826人	0人	579人	数値改善

出典：静岡県警察本部生活安全部人身安全少年課少年サポートセンター「丘の子どもたち」

⇒ 喫煙により補導される中高生の人数は、目標値には達していないが、基準値からは減少している。

【目標】 肺がんの年齢調整罹患率30.0以下を目指します。

項目	基準値 (2019年)	目標値 (2029年)	最新値 (2023年)	進捗状況
肺がんの年齢調整罹患率 (10万人当たり)	37.8	30.0以下	34.6	数値改善

出典：国立がん研究センター「全国がん登録」

⇒ 関係機関と連携の上、喫煙防止・受動喫煙防止対策を推進し、肺がんの年齢調整罹患率の改善を図る。

I-1 たばこ対策の強化

【目標】 受動喫煙の機会を有する者の割合の減少を目指します。

項目	基準値 (2022年)	目標値 (2029年)	最新値	進捗状況
受動喫煙の機会を有する者の割合	職場 21.1% 家庭 6.6% 飲食店 22.4%	職場 0% 家庭 3% 飲食店 15%	2026年4月 公表予定	評価不能

出典：厚生労働省「国民健康・栄養調査」

⇒ 関係機関と連携の上、喫煙防止・受動喫煙防止対策を推進し、受動喫煙の機会を有する者の割合の改善を図る。

I-2 生活習慣の改善

2025年度の取組等

- 食育月間（6月）食育の日（毎月19日）健康増進普及月間（9月）等に、県民の食生活の改善を促す普及啓発キャンペーン等を実施した。（健康増進課）
- 市町、食生活推進協議会等の団体への支援、協働した取組を実施するほか、保健指導や健康相談等による適切な支援に向けた保健指導従事者等への研修を行った。（健康増進課）
- 働く世代を対象として、社員食堂やスーパーマーケット等での「しずおか健幸惣菜」の提供促進、企業と連携した県民の野菜摂取を増やす取組を行った。（健康増進課）
- 小学5年生、中学1年生に食育啓発リーフレット「朝ごはん食べていますか？」を配付し生活習慣の改善を促した。（健康体育課）

目標への進捗状況

【目標】 20歳以上の県民の1日当たり野菜摂取量350g以上を目指します。
20歳以上の県民の1日当たり食塩摂取量の減少を目指します。

項目	基準値 (2022年)	目標値 (2035年)	参考値※ (2024年)	最新値	進捗状況
野菜摂取量の平均値 (g/日)	285.1g	350g以上	男性279g 女性237g	2029年 公表予定	評価不能
食塩摂取量の平均値 (g/日)	男性10.8g 女性9.2g	男性7.5g 女性6.5g	男性10.4g 女性8.7g	2029年 公表予定	評価不能

⇒ 関係機関と連携の上、引き続き食生活の改善の啓発を行う。

出典：静岡県「県民健康基礎調査」
※出典：厚生労働省「国民健康・栄養調査（結果の概要）」

I-2 生活習慣の改善

【目標】 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している県民の割合の減少を目指します。

項目	基準値 (2022年)	目標値 (2035年)	最新値	進捗状況
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している県民の割合	男性14.1% 女性6.9%	男性12% 女性6%	2029年 公表予定	評価不能

出典：静岡県「県民健康基礎調査」

⇒ 関係機関と連携の上、引き続き適度な飲酒の啓発を行う。

【目標】 運動習慣のある県民の割合の増加を目指します。
肥満者（BMI25以上）の割合の減少を目指します。

項目		基準値 (2020年)	目標値 (2035年)	最新値 (2022年)	進捗状況
運動習慣のある 県民の割合	40～64歳	男性26% 女性18%	男性30% 女性30%	男性28.0% 女性19.1%	現状維持
	65～74歳	男性43% 女性40%	男性50% 女性50%	男性41.9% 女性39.4%	
40～60歳代の肥満者の割合		男性35.7% 女性20.6%	男性30%未満 女性15%未満	男性35.5% 女性20.5%	数値改善

出典：静岡県「特定健診データ分析」

⇒ 運動習慣のある県民の割合、肥満者の割合ともに数値が改善している。企業等と連携し、引き続き「働く人の生活習慣改善プログラム」の普及啓発を継続していく。

I-3 がんの原因となる感染症対策の推進

2025年度の取組等

- 肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業（2018年12月開始）による医療費の助成を行った。（感染症対策課）
- 第4期静岡県肝疾患対策推進計画の策定に伴い、各地域において、肝炎ウイルス検査の受検勧奨等の更なる促進を図るため、肝炎ウイルス検査の受検勧奨等を地域や職域で中心となって進める「肝炎医療コーディネーター」について、全ての拠点病院、保健所及び市町への配置を進めるとともに、県内のどの地域でも適切に相談を受けられるよう、2028年度末までに県内全市町の医療機関に肝炎医療コーディネーターを1人以上配置することを目標として定めた。（感染症対策課）
- 静岡県肝炎医療コーディネーター養成研修会を開催した（2025年3月31日現在の肝炎医療コーディネーター数：581人）。（感染症対策課）

I-3 がんの原因となる感染症対策の推進

目標への進捗状況

【目標】 B型・C型肝炎ウイルス検査の受検者数を増やし、陽性者を発見して医療につなげることで、肝がんの罹患者数を減少させます。

項目	基準値 (2021年)	目標値 (毎年度)	最新値 (2023年)	進捗状況
肝炎ウイルス検査の受検者数	B型 33,235人 C型 33,642人	B型・C型それぞれ 4万人以上	B型 31,021人 C型 31,339人	数値悪化

出典：静岡県「特定感染症検査等事業実績報告」「健康増進事業実績報告」、厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」

⇒ 本検査の受検者数は、2011年頃から2015年頃をピークに減少が続いている。

要因としては、上述の時期に国によるB型肝炎給付金制度の開始やC型肝炎治療の新薬承認があったことから、住民の肝炎ウイルス検査への関心が高まり、医療機関からの検査勧奨が進んだものの、その後は時間の経過とともに社会的関心が低下したことが考えられる。

肝がんの多くは、B型・C型肝炎ウイルスの持続感染が原因であることから、健康増進事業（肝炎ウイルス検診）を実施する市町や医療機関と連携しながら、特定健診の初回受診者や外国からの移住者をはじめとした未受検者への啓発を強化すること等により、受検者数の増加を目指す。

I-4 がん検診の受診率向上と精度管理の推進

2025年度の取組等

- 静岡県対がん協会と協力し、各市町の健康イベント等において、がん検診を受診することの必要性を県民に啓発したほか、乳がん自己検診法講習会や巡回指導等も併せて実施した。
(疾病対策課)
- 協定企業・団体（2025年度に1企業と新たに協定を締結。全50企業・団体）と協働し、金融機関や小売業等、店頭でのリーフレット配付やがん検診受診キャンペーンによる啓発活動を推進した。
(疾病対策課)
- 2025年9月、「がん征圧大会」を開催した。「がんのこと 正しく知って がん検診」をスローガンとし、広く県民に対し、がんに関する正しい知識を普及するとともに、がんの早期発見・早期治療の重要性を啓発した。(疾病対策課)
- 2025年9月、市町のがん検診担当者研修会を開催し、大腸がん検診及び乳がん検診に関する講演や市町の事例共有を行い、市町のがん検診の受診率と精度管理の向上を図った。
(疾病対策課)
- がん検診精度管理委員会及び各部会（胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん及び子宮がん）を開催し、県及び市町のがん検診の精度管理の向上に向けた検討を行った。(疾病対策課)
- 被扶養者や国民健康保険加入者を主なターゲットにした「**乳がん検診受診促進キャンペーン**」を2025年8月から実施している。(疾病対策課)

静岡県がん検診精度管理委員会・各部会

協議事項

- 事業評価のためのチェックリストの遵守状況
- プロセス指標の達成状況等

協議結果



今後、以下の事項に取り組むこととする。

- 静岡県がん検診精度管理委員会から各市町へ指導事項、助言事項を通知
- 各市町へのヒアリング、研修会を実施

開催状況

区分	開催日
胃がん部会	2026年1月13日
肺がん部会	2025年12月22日
大腸がん部会	2026年1月9日
乳がん部会	2026年1月7日
子宮がん部会	2025年12月25日
静岡県がん検診精度管理委員会	2026年2月4日

「乳がん検診受診促進キャンペーン」

区分	内容				
<p>プレゼントキャンペーン 「受けトク！キャンペーン」</p>	<p>乳がん検診の受診又は受診予約をした方に、抽選でプレゼントが当たるキャンペーンを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○応募条件 <ul style="list-style-type: none"> ・静岡県内に在住する40歳以上69歳以下の女性 ・2025度中に乳がん検診を受診済又は予約済 ○応募受付期間 2025年8月8日（金）～11月30日（日） ○応募総数 <table border="0" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">{</td> <td style="padding: 0 10px;">受診のきっかけになった人：17%</td> </tr> <tr> <td style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td style="padding: 0 10px;">次回も必ず受診したいと回答した人：88%</td> </tr> </table> 	{	受診のきっかけになった人：17%	}	次回も必ず受診したいと回答した人：88%
{	受診のきっかけになった人：17%				
}	次回も必ず受診したいと回答した人：88%				
<p>県民向け広報 「万が一ではなく九が一。」</p>	<p>女性が生涯で乳がん罹患する割合は9人に1人に上ることから、「万が一ではなく九が一。」をキャッチコピーとした啓発活動を展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○YouTube、Web、デジタルサイネージ広告 ○リーフレット配布 ○静岡新聞アットエス取材記事掲載 ○2025年10月4日（土）JR静岡駅での街頭キャンペーン 				
<p>セミナー開催</p>	<p>乳がん啓発月間「ピンクリボン月間」に、企業経営者や従業員等を対象に啓発セミナーを開催</p> <p>日時：2025年10月17日（金） 午後1時30分～3時（オンライン開催）</p> <p>内容：健康経営と女性活躍を支える乳がん検診の重要性</p> <p>講師：静岡社会健康医学大学院大学 溝田友里 准教授</p> <p>参加人数：29人</p>				

I-4 がん検診の受診率向上と精度管理の推進

目標への進捗状況

【目標】 検診5がんのがん検診受診率60%以上を目指します。

項目	基準値 (2022年)	目標値 (2029年)	最新値	進捗状況
胃がん検診	43.2%	各がん検診 60%以上	2026年7月 公表予定	評価不能
肺がん検診	54.4%			
大腸がん検診	48.3%			
乳がん検診	45.9%			
子宮頸がん検診	44.0%			

出典：厚生労働省「国民生活基礎調査」

⇒ 最新値が更新されていないため評価不能であるが、いずれも目標値である60%には達していないため、引き続きがん検診を受診する意義等について、受診者に理解を得られるように努め、受診促進に取り組む。

I-4 がん検診の受診率向上と精度管理の推進

目標への進捗状況

【目標】 検診5がんの精密検査受診率90%以上を目指します。

項目	基準値 (2020年)	目標値 (2029年)	最新値 (2022年)	進捗状況
胃がん検診	73.2%	各がん検診 90%以上	72.9%	現状維持
肺がん検診	84.2%		82.9%	
大腸がん検診	69.4%		64.4%	
乳がん検診	86.4%		87.3%	
子宮頸がん検診	64.3%		76.0%	

出典：厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」

⇒ 精密検査受診率は、大腸、乳がん、子宮頸がんで基準値を上回ったが、胃、肺では基準値を下回っている。また、いずれも目標値である90%には達していないため、引き続き精密検査を受診する意義等について、受診者に理解を得られるように努め、精密検査の受診促進に取り組む。

Ⅱ－５ がん診療連携拠点病院等の整備

2025年度の取組等

- 国の「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」（2022年8月）に基づき、県内では13病院が、がん診療連携拠点病院等に指定されている。（疾病対策課）
- 県独自制度による静岡県地域がん診療連携推進病院を7施設、がん相談支援センター設置病院を2施設指定している。（疾病対策課）
- 静岡県がん診療連携協議会の下部にある相談支援部会をWeb方式で開催し、国の部会の議事内容報告、各病院の課題、先進的な取組等の共有化、患者家族への情報提供のための方法等について、議論した。（静岡がんセンター）
- 県民向け公開講座「静岡がんセンター公開講座2025」を現地及びオンラインのハイブリッド方式で開催し、「知ろう、一緒に。がん医療の今」と題し、がんの最新治療等についての講演を行った。（7月～1月 全7回）（静岡がんセンター）

目標への進捗状況

【目標】 県内のがん診療連携拠点病院等13病院は、今後も新しい国指定要件を満たします。

項目	基準値 (2023年)	目標値 (2029年)	最新値 (2025年)	進捗状況
国指定要件を満たす拠点病院等の数	13施設	13施設	13施設	目標達成

出典：静岡県疾病対策課調べ

⇒ 目標値は達成しているが、既存の指定病院が継続して指定要件を充足できるよう、今後も病院の現地確認や助言等の支援を実施する。

Ⅱ－6 手術療法、放射線療法、薬物療法及び免疫療法の推進

2025年度の取組等

- 「がん医療均てん化推進事業費助成」により、がん診療連携拠点病院 9 病院が整備した低侵襲医療、難治性がん、ゲノム医療の設備に対して助成を行った。（疾病対策課）
- 正常組織への照射リスクを抑えられる陽子線治療において、2024年 4 月に保険診療に追加され、2025年に陽子線治療が過去300件超になる予定で取り組んでいる。（静岡がんセンター）
- 専門的な知識と経験を有する乳がん看護認定看護師（日本看護協会認定）による「乳腺看護外来」を新たに設置し、12月15日より運用を開始した。（静岡がんセンター）
- 診療科の中で専門性による組織細分化編成を行い、消化器内科を頭頸部、消化管、胆膵の 3 部門、内視鏡科を上部消化管と下部消化管の 2 部門とした。（静岡がんセンター）
- 2026年 1 月19日から、在院日数の減少・適正化や退院後の自宅生活の円滑化等を目的に、全国的にも非常に稀となる多職種による「骨転移サポートチーム」を組織し、骨転移のある入院患者に対し、全病院的に専門的支援を行っている。（静岡がんセンター）

Ⅱ－6 手術療法、放射線療法、薬物療法及び免疫療法の推進

目標への進捗状況

【目標】診療報酬の施設基準を満たした放射線療法チームが設置された国・県指定病院等を21施設整備します。

専門性が高く、効果的な薬物療法を安全に実施できるがん薬物療法専門医を国・県指定病院等に配置します。

項目	基準値 (2022年)	目標値 (2029年)	最新値 (2025年)	進捗状況
放射線治療専任加算の施設基準届出病院数	15施設	21施設	18施設	数値改善
がん薬物療法専門医が常勤する国・県指定拠点病院等数	7施設	13施設	7施設	現状維持

出典：静岡県疾病対策課調べ

⇒ 放射線治療専任加算の施設基準届出を行う国・県指定病院等の施設数は、基準値から増加し、18施設となった。がん薬物療法専門医が常勤する国・県指定病院等の施設数は、基準値に届かず6施設である。引き続き、がん放射線療法の施設・設備整備の助成を行うほか、薬物療法専門医が、国・県指定拠点病院等に常勤で配置されていない病院に対し配置を促すなど、医療体制の充実に向けた支援を実施する。

Ⅱ－7 がんゲノム医療体制の構築とプロジェクトHOPEの推進

2025年度の取組等

- 2020年4月1日から、がんゲノム医療の中心的役割を果たす病院として、がんゲノム医療中核拠点病院に指定されている。（静岡がんセンター）
※現在、がんゲノム医療中核拠点病院は全国で13施設指定
- がんゲノム医療連携病院として、県内7つのがん診療連携拠点病院が、静岡がんセンターと連携している。また、県立こども病院は、国立成育医療研究センター（がんゲノム医療拠点病院）と連携している。（静岡がんセンター）
- 2014年1月に開始した「プロジェクトHOPE」には、2025年12月31日現在、14,020症例が参加し、13,275症例の解析を行っている。（静岡がんセンター）
- 遺伝子パネル検査が公的医療保険の適用となった2019年6月以降、複数の専門家で構成されるエキスパートパネルをおおむね40人の医師・看護師・研究者参加のもと計283回実施している。（2025年12月31日現在）（静岡がんセンター）
- AMED（日本医療研究開発機構）の「がん全ゲノム解析等の患者還元の拡大および創薬や治療等の創出をめざした研究」に、静岡がんセンターの研究テーマ「10,000症例マルチオミクス解析の経験にもとづく、全ゲノム解析の患者還元に関する研究」が採択され、2022年度から5年間の研究を行っている。（静岡がんセンター）

Ⅱ－７ がんゲノム医療体制の構築とプロジェクトHOPEの推進

目標への進捗状況

【目標】がんゲノム医療を実施することが可能な体制を整備します。

項目	基準値 (2022年)	目標値 (2029年)	最新値 (2025年)	進捗状況
県内のがんゲノム医療中核拠点病院及びがんゲノム医療連携病院の数	9施設	12施設	11施設	数値改善

出典：静岡県疾病対策課調べ

⇒ 国の指針に基づくがんゲノム医療を実施することが可能な県内のがん診療連携拠点病院等の数は2施設増加し、11施設となった。引き続き、機器整備への助成を行うほか、がんゲノム医療中核拠点病院である静岡がんセンターを中心に関連病院と連携を密にし、人材育成に努める。

Ⅱ－8 医療安全対策の推進

2025年度の実施等

- 国の「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」（2022年8月）に基づき、県内13の全ての国指定病院で、要件の充足を確認している。（疾病対策課）

Ⅱ－9 多職種チーム医療の推進

2025年度の取組等

- 静岡県がん診療連携協議会の下部組織に支持療法部会、相談支援部会、緩和ケア部会、小児・AYA世代がん部会、がんゲノム医療部会及び希少がん部会の6つの部会を設置し、部会ごとにWeb方式の会議を開催し、静岡がんセンターで進めてきた多職種チーム医療について、ノウハウ・意識を共有した。（静岡がんセンター）
- 医科歯科連携推進委員会を開催し、医科歯科連携の課題及び病院歯科が設置されていない地域医療支援病院との医科歯科連携体制の整備について協議し、がん診療連携拠点病院等と院内外の歯科医師との医科歯科連携の強化を図った。（静岡がんセンター）
- 静岡県歯科医師会と連携し、医科歯科連携に関する研修会を開催した。また、周術期の口腔機能管理に関するリーフレットを作成し、配布した。（疾病対策課）

Ⅱ－10 がんに関するリハビリテーション・形成外科・補填医療の普及

2025年度の実施等

- 「若年がん患者等支援事業費助成」として、がん患者医療用補整具（医療用ウィッグ、補整下着、人工乳房）購入支援制度により、がん患者を支援した。（疾病対策課）
- がん患者のリハビリテーションの研修会をオンラインで開催し、医療従事者の質の向上を図った。（静岡がんセンター）

Ⅱ－11 がん治療に伴う支持療法の推進

2025年度の実施等

- 訪問看護ステーションの看護師等を対象に、リンパドレナージの技術の修得のための研修会を、東・中・西部の3会場で開催した。（疾病対策課）
- 静岡県がん診療連携協議会の下部組織に支持療法部会を設置し、がん治療に伴う支持療法の推進に取り組んでいる。（静岡がんセンター）

目標への進捗状況

【目標】国・県指定病院等は、ストーマ外来及びリンパ浮腫外来を整備します。

項目	基準値 (2023年)	目標値 (2029年)	最新値 (2025年)	進捗状況
ストーマ外来及びリンパ浮腫外来を設置している国・県指定病院等の施設数	11施設	23施設	12施設	数値改善

出典：静岡県疾病対策課調べ

⇒ ストーマ外来及びリンパ浮腫外来を設置している国・県指定病院等は、基準値から1施設増加し、12施設となった。

Ⅱ－12 希少がん、難治性がん治療のための連携の推進

2025年度の取組等

- 国立がん研究センターがん情報サービスが実施している「施設別がん登録件数検索システム」を活用し、希少がんの医療機関情報などの情報提供を適宜行っている（県内では、静岡がんセンターと聖隷浜松病院が同システムに登録）。（静岡がんセンター）
- がん診療連携拠点病院の相談員が、「施設別がん登録件数検索システム」活用のための説明会・ワークショップに参加し、相談・情報提供の質の向上を図った。（静岡がんセンター）
- がん診療連携拠点病院等では、希少がんや難治性がんの患者に、適切な緩和ケア等を実施した。（疾病対策課）
- 静岡県がん診療連携協議会のホームページで、各がん診療連携拠点病院が担う希少がんへの対応可能情報をワンクリックで確認できるようにするとともに、最新治療実績を公開し、県民・患者家族への情報提供体制の充実を図っている。（静岡がんセンター）

Ⅱ－13 小児がん、A Y A世代のがん医療の整備

2025年度の取組等

A 小児がん

- 2023年4月1日から、県立こども病院が、全国に15施設ある国の小児がん拠点病院に引き続き、指定された。（疾病対策課）
- 小児がんへの理解と小児・AYA世代がん患者とその家族への支援を呼び掛けるため、「国際小児がんデー（2月15日）」に合わせて、ライトアップ（ゴールド）を実施している。（疾病対策課）
- 小児がんの早期発見と診断につながるよう、2019年8月に患者団体の協力のもと、静岡県がん診療連携協議会小児・A Y A世代がん部会にて、「小児がん診断ハンドブック静岡県版」を作成している。また、ハンドブックのPDFデータを提供し、電子カルテへの掲載等の活用を依頼するとともに、県ホームページに掲載している。（疾病対策課、静岡がんセンター）
- **小児がんや難病等の子どもを養育する世帯における、長期の入院や頻繁な外来受診に伴う交通費等の経済的負担を軽減するため、支援金制度を創設した。（疾病対策課）**

難病・がん小児患者等世帯交通費等支援

制度概要

対象	世帯	対象となる疾病について認定を受けた患者を養育する世帯
	疾病	小児慢性特定疾病（小児がん含む）、指定難病
	年齢	20歳未満
受診先		県内・県外の医療機関（同一の2次保健医療圏内を除く）
入院	条件	連続する6日以上入院
	上限	90日／年
	単価	付添い1日当たり2,000円（定額）
通院	条件	1月当たり4日以上通院
	上限	12月／年
	単価	1月当たり4,000円（定額）

実績

区分	交付申請	内 訳		備 考
		入院	通院	
件数	66件	57件	18件	入院と通院の重複あり
金額	4,650千円	4,462千円	188千円	

※対象期間：2025年4月1日～9月30日

Ⅱ－13 小児がん、A Y A世代のがん医療の整備

2025年度の取組等

B A Y A世代（思春期・若年成人）のがん

- 「若年がん患者等支援事業費助成」として、妊孕性温存治療（精子、卵子、受精卵又は卵巣組織の凍結保存）及び温存後生殖補助医療（凍結した精子、卵子又は受精卵を用いた生殖補助医療）を受けたがん患者を支援している。（疾病対策課）
- 「若年がん患者等支援事業費助成」として、小児・若年がん患者在宅療養生活（訪問介護、訪問入浴介護、福祉用具貸与・購入）支援制度により、終末期がん患者を支援している。（疾病対策課）
- 妊孕性温存治療支援については、2021年度から国の「小児・A Y A世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」が開始されたが、県制度と支援内容や対象に相違があったことから、県では、現行の補助水準を維持するため、県独自の補助を実施し、若年がん患者を支援している。（疾病対策課）
- 県内のがん診療施設及び妊孕性温存療法実施医療施設等により構成される静岡県がん・生殖医療ネットワーク会議を開催し、若年がん患者支援の情報共有を行った。（疾病対策課）
- 小児・A Y A世代がん部会では、小児がん患者が療養中に適切な教育を受けることができるよう医療機関、教育委員会・学校と連携し、医教連携コーディネーターの配置や訪問教育の利用推進等を図り、進級や卒業の支援を行った。（静岡がんセンター）

Ⅱ－13 小児がん、AYA世代のがん医療の整備

目標への進捗状況

【目標】こども病院を中核とした県内の小児がん医療体制を継続します。

項目	基準値 (2023年)	目標値 (2029年)	最新値 (2025年)	進捗状況
小児がん拠点病院及び小児がん連携病院の数	<u>4施設</u>	4施設	<u>3施設</u>	数値悪化

出典：静岡県疾病対策課調べ

⇒ 小児がん連携病院が1施設減少したが、県立こども病院とがん診療連携拠点病院等との連携を促し、小児がん連携病院の増加を図っていく。また、引き続き、県立こども病院が国の小児がん拠点病院に指定されるよう院内体制の充実を図る取組を支援する。

Ⅱ－14 高齢者のがん医療の推進

2025年度の取組等

- 手術支援ロボット「ダヴィンチ」4台・「hinotori」1台の計5台を備え、年間1,000件を超すロボット手術を行い、内視鏡手術も含めた低侵襲手術を推進するとともに、陽子線治療やIMRT(強度変調放射線治療)などの高精度放射線治療を実施しており、低侵襲治療を推進する中心施設としての機能を果たしている。(静岡がんセンター)
- 2025年1月より「高齢者総合機能評価」に基づくスクリーニングを開始し、2025年12月31日現在、2,586件のスクリーニングを行った。その結果に基づき、高齢者に必要なリハビリ等の介入を行っている。(静岡がんセンター)

Ⅱ－15 病理診断の均てん化

2025年度の取組等

- 静岡県病理医会症例検討会等において、希少症例及び診断困難症例を中心とした症例検討を行い、症例情報や診断法を共有するなど病理診断の均てん化を図っている。（静岡がんセンター）

Ⅱ－16 がん登録の活用

2025年度の取組等

- 2025年6月、10月、2026年2月に静岡県がん登録協議会を開催し、計5件の情報提供について審査、承認した。（疾病対策課）
- 2016～2020年のがん登録データをまとめ、罹患率などの指標をグラフ化した報告書「2016～2020年 静岡県 全国がん登録の概要」を公表した。（疾病対策課）

目標への進捗状況

【目標】全国がん登録の高い精度を維持します。

項目	基準値 (2020年)	目標値 (2029年)	最新値 (2023年)	進捗状況
がん登録における全部位がんのDCI割合	3.1%	20%未満	3.1%	数値悪化
がん登録における全部位がんのDCO割合	<u>2.4%</u>	10%未満	<u>2.5%</u>	
がん登録における全部位がんのMI比	<u>0.42</u>	0.4以上 0.45以下	<u>0.39</u>	

DCI：死亡後にがん罹患が把握された割合

出典：国立がん研究センター「全国がん登録」

DCO：がん死亡の情報のみで登録され、追加調査を行っても詳細が不明な割合

MI比：一定期間におけるがん死亡数とがん罹患数に対する比

⇒ DCI割合とDCO割合は目標値を達成している。MI比は目標値を満たしていないが、2023年の全国の値は0.38となっており、本県の値はより目標値に近い。今後、同一患者の同定を強化して重複登録を防止するなど精度の高い全国がん登録の実施によりMI比の改善に努めるとともに、各病院に届出の徹底を推進することで、効果的ながん対策に活用できるよう情報提供に努める。

がん登録報告書の作成及び公表

目的

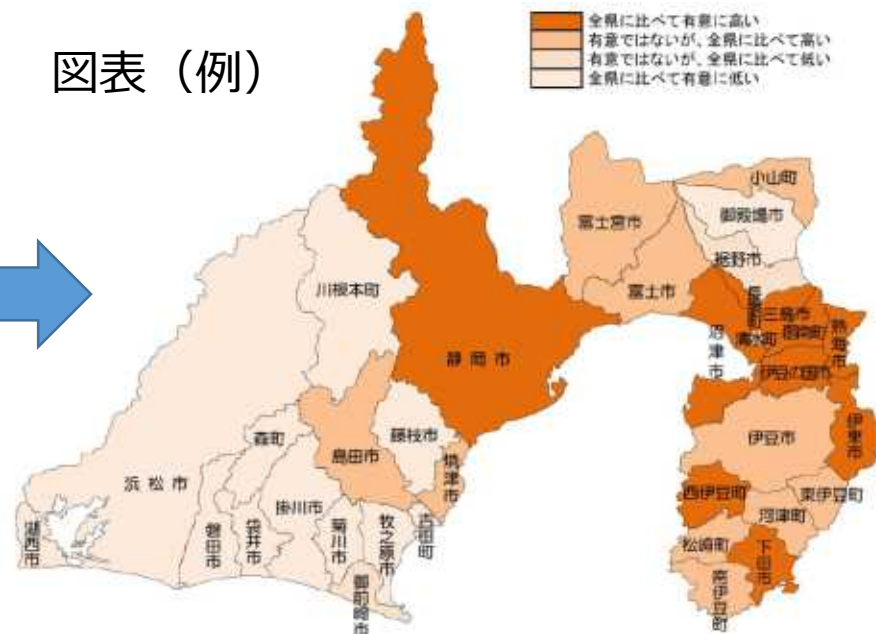
- グラフや図表を用いて、県民に分かりやすい情報を提供
- がん研究者や市町等が扱いやすい情報（標準集計表）を提供

「2016～2020年 静岡県 全国がん登録の概要」

掲載図表

	項目	がん種	集計範囲
1	年齢調整罹患率	全がん	全国、県
2	年齢調整罹患率	部位別	全国、県
3	対県標準化罹患比	全がん	市町
4	年齢調整死亡率	全がん	全国、県
5	発見経緯	検診5がん	全国、県
6	総合進展度（病期）	検診5がん	全国、県
7	5年相対生存率	部位別	全国、県

図表（例）



令和7年7月 静岡県ウェブサイトにて公表

<https://www.pref.shizuoka.jp/kenkofukushi/shippeikansensho/ganshippei/1003067/1003080/index.html>



Ⅱ－17 臨床試験（治験）の充実

2025年度の取組等

- 静岡がんセンターを中心に、地域がん診療連携拠点病院と連携し、がん領域の治験実施体制の強化を図った。（静岡がんセンター）
- 県内26病院で構成する静岡県治験ネットワークでも、治験従事者を対象に講習会を開催し、各病院の治験実施体制の充実を支援している。（薬事課）
- 早期相の国際共同治験にも対応すべく、2024年4月から、新規治験開発科を立ち上げ、専用病棟の運用を開始した。（静岡がんセンター）
- 臨床試験に参加する患者さんの利便性向上のため、分散型臨床試験（DCT）のうち遠隔治験システムを2024年12月に導入した。今後は遠隔地の病院との連携により、DCTのさらなる拡充を図っていく。（静岡がんセンター）

Ⅲ－18 緩和ケアの充実

2025年度の取組等

- 県内17のがん診療連携拠点病院等で緩和ケア研修会を開催し、医師、歯科医師、看護師、薬剤師など379人が受講した。（疾病対策課）
- 緩和ケア研修を修了した医師等を対象に、フォローアップ研修会（専門医等による最新の知見に関する講演やグループワーク）を開催した。（疾病対策課）
- 在宅緩和ケアを推進するため、看護師等を対象とした研修会をWeb方式で開催した。（静岡がんセンター）
- 各地域薬剤師会では、薬剤師の在宅訪問が可能な薬局のリストを作成し、インターネット上での公表や医療機関などの関係者へ配布し、情報共有を図った。（薬事課）

Ⅲ－18 緩和ケアの充実

目標への進捗状況

【目標】がん診療連携拠点病院等において、がん患者の主治医や担当医等、がん診療に携わる全ての医師が緩和ケア研修を修了します。

【目標】診療所医師の緩和ケア研修修了者の増加を目指します。

項目	基準値 (2022年)	目標値 (2029年)	最新値 (2024年)	進捗状況
国・県指定病院等に勤務する医師のうち、緩和ケア研修会を修了した者の割合	74.3%	90%	74.5%	数値改善
診療所の医師のうち緩和ケア研修会を修了した者の累計人数	250人	380人	256人	数値改善

出典：静岡県疾病対策課調べ

⇒ 国・県指定病院等に勤務する医師のうち、緩和ケア研修会を修了した者の割合は、基準値をわずかに上回っているが、目標値の達成に向けて、緩和ケア研修を修了した者の割合が低い病院に対して、より多くの職員が受講できるよう、個別に働き掛けていく。

Ⅲ－19 相談支援の充実

2025年度の取組等

- がん診療連携拠点病院等では、患者やその家族が利用しやすいようにがん相談支援センターの環境整備を図った。（疾病対策課）
- 静岡県がん診療連携協議会の下部組織の相談支援部会において、がん相談支援センターのフィードバック体制について審議し、県内の全ての国・県拠点病院等（23病院）で、統一書式にて利用者アンケートを実施した。（静岡がんセンター）
- がんの診断を受けてまもない患者・家族に対する、治療や療養生活のガイドとなる小冊子「がんと診断されたあなたへ がんと向き合うために ～静岡版 道しるべ～」を関係機関に配布、また内容の改訂を行っている。（疾病対策課、静岡がんセンター）
- 各医療機関で開催されている患者サロン等の情報を取りまとめたリーフレットを関係機関に配架した。（疾病対策課）
- 4つの柱（①診療の悩み、②身体の苦痛、③心の苦悩、④暮らしの負担）に分けられる悩みを有する患者、家族のケアに取り組むため、化学療法センター、支持療法センター、患者家族支援センター、よろず相談の4大センター及び全人的医療の実践のための機能としての支持療法をはじめとする9大機能体制で患者のサポートを行った。（静岡がんセンター）
- 静岡がんセンターのよろず相談を対面で利用することが難しい方のために、医師と医療ソーシャルワーカー等のチームが地域に出向き相談を行う、出張がんよろず相談を実施した。2025年度は、富士市、富士宮市、静岡市、浜松市、伊東市の5箇所で10件の相談に対応し、計14人が利用した。個別相談会後に、当該地域のがん相談支援センター長（医師）、相談員の医療ソーシャルワーカーや看護師、市町の保健師や事務担当者等と意見交換を行った。（静岡がんセンター）

Ⅲ－19 相談支援の充実

2025年度の取組等

- 静岡県がん診療連携協議会の相談支援部会と連携し、がん相談員を対象としたワークショップを参集で開催し、初めて県内の全ての国・県拠点病院等（23病院）からの参加があり、がん相談の資質向上に向けて、今後3年間の研修内容について協議した。（疾病対策課、静岡がんセンター）

目標への進捗状況

【目標】がん診療連携拠点病院等は、自院のがん相談支援センターについて、がん患者とその家族に周知並びに利用促進を図ります。

項目	基準値 (2022年)	目標値 (2029年)	最新値 (2024年)	進捗状況
国・県指定病院等の相談支援センター（県内23施設）での年間総相談件数	54,597件	64,000件	61,088件	数値改善

出典：静岡県疾病対策課調べ

⇒ 基準値を上回っているが、目標値の達成に向け引き続き、総相談件数の更なる増加を目指し、がん患者とその家族への周知を強化し、利用促進を図る。

Ⅲ－20 医療連携の充実

2025年度の取組等

- がん看護専門研修を開催し、県内の医療機関におけるアピアランスケアの推進を目的とした情報提供を行った。（静岡がんセンター）
- 活動内容を県内外医療機関等へ提供するために広報紙「やまびこ」を発行した。また、予約待ちや手術待ちの期間や診療科の紹介等を掲載した「やまびこMonthly」を毎月、発行している。（静岡がんセンター）
- がんの薬物治療に係る専門性を有する薬剤師が配置されている5薬局を、がん診療連携拠点病院等の専門医療機関等と連携して治療を支える専門医療機関連携薬局に認定している。（薬事課）

Ⅲ－21 県民に対するきめ細かな情報提供

2025年度の実施等

- 「医療情報ネット（愛称「ナビイ」）」により、各医療機関が行う定期報告を通じて、がん医療に関する年間手術件数や医療専門職の配置状況等の詳細な情報提供に努めている。
（医療政策課）
- 報道機関への取材対応やプレスリリース、ホームページ等で自施設の実施等に関して積極的に情報提供を行った。（静岡がんセンター）
- 県民向け小冊子を作成し、院内図書館や院内の通路等のイーゼルに配架し、手軽に手に取る形の情報提供を行った。また、患者、家族向け勉強会等も開催した。（静岡がんセンター）
- 地域の医療資源検索システム「あなたの街のがんマップ」を運用して、自宅周辺を始め県内の医療機関、薬局、訪問看護ステーション等の情報を提供している。
（静岡がんセンター）
- がんの診断を受けてまもない患者・家族に対する、治療や療養生活のガイドとなる小冊子「がんと診断されたあなたへ がんと向き合うために ～静岡版 道しるべ～」を関係機関に配布、また内容の改訂を行っている。（再掲 19相談支援の充実）（疾病対策課、静岡がんセンター）

Ⅲ－22 在宅医療の充実

2025年度の取組等

- 在宅ターミナルケアを実施している訪問看護ステーションに所属する看護師等を対象に、在宅ターミナルケアの専門的な知識及び技術の修得のための研修会を、東・中・西部の3会場で開催している。（疾病対策課）
- 訪問看護ステーションの看護師等を対象に、リンパドレナージの技術の修得のための研修会を、東・中・西部の3会場で開催した。（再掲 11がん治療に伴う支持療法の推進）（疾病対策課）
- 訪問看護ステーションに所属する看護師等の質の向上及び訪問看護ステーション間の連携強化のための研修会を、県内各地で開催した。（疾病対策課）
- 「若年がん患者等支援事業費助成」として、小児・若年がん患者在宅療養生活（訪問介護、訪問入浴介護、福祉用具貸与・購入）支援制度により、がん患者を支援している。（再掲 13小児がん、AYA世代のがん医療の整備）（疾病対策課）
- 在宅緩和ケアを推進するため、看護師等を対象とした研修会をWeb方式で開催した。（再掲18緩和ケアの充実）（静岡がんセンター）
- 地域の在宅医療・介護事業所スタッフとの面談やカンファレンスをオンラインで実施した。（静岡がんセンター）

Ⅲ－23 就労のための支援

2025年度の取組等

- 国が都道府県毎に設置する「地域両立支援推進チーム」に参画し、保健所と連携した県民や事業所の理解促進に向けた取組や参画機関開催の各種講習会への案内等を実施した。（疾病対策課）
- 「ダイバーシティ経営導入推進セミナー」や「ダイバーシティ経営導入推進アドバイザー派遣事業」、「多様な働き方導入推進巡回訪問事業」の中で、経営者や中小企業に対し、がんなどの疾病をかかえる様々な立場の方々が働きやすい環境を整備するため、短時間勤務制度やテレワーク環境の整備等、職場環境の整備に取り組んでいる。（産業人材課）
- 県内の14施設の国・県拠点病院等にて、静岡労働局と協働し、公共職業安定所の就職支援ナビゲーターによる出張相談を実施している。（静岡がんセンター）
- 2021年1月1日付けで、静岡県産業保健総合支援センターと「治療と仕事の両立支援事業に係る協定書」を締結し、相談体制の強化を図っている。（静岡がんセンター）
- 県内の企業へのがん医療に関する啓発を目的として、静岡労働局と協働し「両立支援セミナー」を開催した。（静岡がんセンター）
- 静岡県がん診療連携協議会の相談支援部会と連携し、がん相談員を対象としたワークショップを参集で開催し、初めて県内の全ての国・県拠点病院等（23病院）からの参加があり、がん相談の資質向上に向けて、今後3年間の研修内容について協議した。（再掲 19相談支援の充実）
（疾病対策課、静岡がんセンター）

Ⅲ－23 就労のための支援

目標への進捗状況

【目標】すべてのがん診療連携拠点病院等で就労相談を実施できる体制を目指します。

項目	基準値 (2022年)	目標値 (2029年)	最新値 (2024年)	進捗状況
就労相談を実施する国・県指定病院等の施設数	17施設	全23施設	17施設	現状維持

出典：静岡県疾病対策課調べ

⇒ 実施施設の増加を目指し、がん患者やがん体験者の就労に関して適切な支援を行えるよう、がん相談支援センターの機能強化を支援するとともに、静岡県がん診療連携協議会の相談支援部会と連携し、就労支援に係るネットワークの強化を図っていく。

【目標】就労相談の実施体制を充実させます。

項目	基準値 (2022年)	目標値 (毎年度)	最新値 (2025年)	進捗状況
がん患者の就労支援に関する研修受講者数	<u>40人</u>	40人	<u>32人</u>	数値悪化

出典：静岡県疾病対策課調べ

⇒ 静岡県がん診療連携協議会相談支援部会において協議の上、国・県指定病院等のがん相談支援センターの相談員のみを対象とするよう、運営方法が見直された。受講者数は、目標値を下回っているが、全ての国・県指定病院等（23病院）からの参加があった。引き続き、相談支援部会と連携し、相談員の資質向上に取り組むとともに、本項目や目標値の見直しを検討する。

Ⅲ－24 患者団体等との連携・協働及び支援

2025年度の取組等

- がん診療連携拠点病院等は、患者団体と連携し、患者サロン等を開催し、自由に語り合える機会の場を提供している。（疾病対策課）
- 静岡県対がん協会が行っているピア・サポーター研修を受けた者を、各がん相談支援センターが開催している患者サロン等に派遣した。（疾病対策課）
- 各医療機関で開催されている患者サロン等の情報を取りまとめたリーフレットを関係機関に配架した。（再掲 19相談支援の充実）（疾病対策課）
- 各相談支援センターでは、患者団体のリーフレットを配架するなどして、患者会の情報提供を適宜行い、がん患者・家族の相談経路の選択肢を広げている。（疾病対策課）
- 静岡県のがん教育を推進する会議体「がん教育に係る検討委員会」の委員として、がん経験者に参加いただき、がん教育に関する検討を行った。（健康体育課）
- 外部講師を活用したがん教育の推進のため、学校におけるがん教育外部講師への登録者を対象に、2025年9月に研修会、2025年11月に教職員と合同の研修会を開催し、学校の現状を共有、意見交換するとともに、本事業における課題について検討した。（健康体育課）
- がん患者団体リストを作成し、県ホームページにおいて公表している。また、がん患者団体との情報交換会を開催した。（疾病対策課）

IV-25 ファルマバレープロジェクトを中心とする研究・開発の推進

2025年度の取組等

- 高齢者の健康寿命を延伸し、健康寿命が尽きた後の自立を支援し、寿命が尽きるまで自立して過ごすことを可能にする「健康長寿・自立支援プロジェクト」を推進した。
(新産業集積課)
- 2018年度から取り組んでいる「健康長寿・自立支援プロジェクト」のひとつの柱である「人生100年時代の住宅整備」の施策として、介護機器開発や施設・住居等への導入など社会実装に繋げ、共同研究室として活用するファルマバレーセンターにおいてモデルルーム「自立のための3歩の住まい」を広く県民に公開している。(新産業集積課)
- 地域の産学官の連携により、医療現場のニーズを踏まえた製品開発を進めている。
(新産業集積課)
- がん医療の飛躍的發展や地域企業の活性化、雇用創出を目指す「ふじのくに先端医療総合特区」では、2021年度から山梨県の7市町が本特区の区域に加わり、医療健康産業政策における山梨県との更なる連携を進めている。(新産業集積課)
- 静岡がんセンターは、ファルマバレープロジェクトの第4次戦略計画の「戦略3 “まちづくり”」の取組として、経済産業部とともに「静岡県医療田園都市構想」を推進した。(静岡がんセンター)

IV-26 静岡がん会議

2025年度の取組等

- 2026年3月、「がん医療の均てん化・集約化の諸課題」「地域活力の向上を目指す医療田園都市構想」の2つをテーマとして、静岡がん会議を開催した。（静岡がんセンター）

IV-27 人材の育成

2025年度の取組等

- がん検診に従事する医師を対象としたがん検診医師研修会を開催している。（再掲 4 がん検診の受診率向上と精度管理の推進）（疾病対策課）
- 乳がん検診に従事する医師、診療放射線技師を対象としたデジタルマンモグラフィの読影、撮影の講習会を開催している。（再掲 4 がん検診の受診率向上と精度管理の推進）（疾病対策課）
- 胃がん検診に従事する放射線技師を対象とした胃がん検診エックス線撮影従事者講習会を開催している。（再掲 4 がん検診の受診率向上と精度管理の推進）（疾病対策課）
- がん検診細胞診に従事する細胞検査技師等を対象としたがん細胞診従事者講習会（肺がん、子宮がん）開催をしている。（再掲 4 がん検診の受診率向上と精度管理の推進）（疾病対策課）
- がん対策ネットワークのメーリングリストの活用等により、県内がん診療連携拠点病院等や市町及び保健所及びがん検診受診率の向上のための協定を結んだ企業等へ、がん診療連携拠点病院等が実施する各種研修の情報提供を行った。（疾病対策課、静岡がんセンター）
- がん医療に強い人材の育成として、2025年3月31日までに、医師・歯科医師レジデント528人、多職種がん専門レジデント79人、認定看護師教育課程740人の修了者を輩出した。（静岡がんセンター）

IV-28 がん教育の推進

2025年度の取組等

- 医療関係者、学識経験者、がん経験者、教育関係者を委員としたがん教育を推進する会議体「がん教育に係る検討委員会」を年2回の実施を計画し、がん教育の方向性、活用実践校の取組計画の確認等を行った。（健康体育課）
- 学校でのがん教育の充実を図ることを目的に、教職員と外部講師を対象としたがん教育研修会を2025年11月に実施した。（健康体育課）
- 学校に公開している外部講師（医療関係者）のリスト一覧の中から派遣依頼があった中学校1校、高等学校4校、特別支援学校3校に講師を派遣した。（健康体育課）
- 県教育委員会に外部講師（がん経験者）として登録されている方を派遣依頼があった小学校1校に1人、中学校4校に4人、高等学校5校に5人、特別支援学校1校に1人の講師を派遣した。（健康体育課）
- 学校におけるがん教育を推進するために、令和7年度高等学校・特別支援学校保健主事研修会で、保健主事を対象に、令和6年度活用実践校における外部講師を活用したがん教育の取組についての周知を図った。（健康体育課）
- たばこの害について啓発するため、県内全ての小学校5年生に喫煙防止（防煙）に関する新しい下敷きを配布した。（再掲 1たばこ対策の強化）（疾病対策課・静岡がんセンター・健康体育課）
- 県民向け小冊子を作成し、院内図書館や院内の通路等のイーゼルに配架し、手軽に手に取る形の情報提供を行った。また、患者、家族向け勉強会等も開催した。（再掲 21県民に対するきめ細かな情報提供）（静岡がんセンター）

IV-28 がん教育の推進

2025年度の実施等

- 2025年度第2回公開講座(2025年8月30日)において、中高生を対象とした特別企画「10代から知っておきたいがんのお話」を開催し、461人の参加があった。(静岡がんセンター)
- 2025年度に、現場でがん教育を担当する教職員を対象とする研修会を2回開催し、1回目27人、2回目50人の参加があった。(静岡がんセンター)

IV－29 デジタル化の推進

2025年度の実施等

- 「医療情報ネット（愛称「ナビイ」）」により、各医療機関が行う定期報告を通じて、がん医療に関する年間手術件数や医療専門職の配置状況等の詳細な情報提供に努めている。（再掲 21県民に対するきめ細やかな情報提供）（医療政策課）